

協働推進制度に対する 取組について【案】

(1) 「8つの論点」

- 論点1 言葉の再調整
- 論点2 サポートのあり方
- 論点3 制度とプロセスの検討
- 論点4 どのようなサポートが必要か
- 論点5 市民と向き合うことができているか
- 論点6 達成指標や達成という意味合い
- 論点7 テーマ設定
- 論点8 市のビジョンとのつながり

(2) 検討課題

- ① 【「協働」の意味や目標の捉え方の不一致】
- ② 【協働の広報啓発不足】
- ③ 【課題の共有不足】
- ④ 【協働のパートナーとしての情報共有不足】
- ⑤ 【（協働推進）事業実施のハードルの高さ】

茅ヶ崎市民活動サポートセンターが担う業務

茅ヶ崎市民活動サポートセンター指定管理者管理運営の基準（R3年度～R7年度）

3 業務内容及び水準

（3）協働の推進に関する業務

指定管理者は、協働の推進を図るため、市民活動団体等相互はもちろん、市民活動団体等と地縁団体（自治会等）や事業者、教育機関、公益法人、自治体などの様々な活動主体を結びつけるコーディネートを実施するものとする。

ア 様々な活動主体間の連携に関する業務

（ア）連携に関する相談対応

（イ）連携に向けた事業実施

イ 本市が実施する協働の推進に関する業務への支援

（ア）周知啓発等の支援：本市が実施する協働の推進に関する施策や実施事業の周知及び啓発などの支援を行うこと。

（イ）市民活動団体等への支援：市民活動団体等が本市の実施する協働の推進に関する施策への参画等を行うにあたり、必要な支援を行うこと。



茅ヶ崎市民活動サポートセンターと協力して協働の推進を行う

検討課題

- ① 【「協働」の意味や目標の捉え方の不一致】
- ② 【協働の広報啓発不足】

8つの論点

- 1、言葉の再調整
- 4、どのようなサポートが必要か
- 5、市民と向き合うことが出来ているか

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート
&
ヒアリング

- ① (団体及び市) 協働の制度や仕組みについて理解不足(委託との違い)。
- ② すでにやっている様々な協働にも目を向けて欲しい。

- ① 市は協働の姿勢が足りないのでは。
- ② 市と協働でどういうことができるようになるのか知らない団体が多いと思う。

協働の周知

取組

- 1 職員研修(協働についての研修)。
- 2 庁内イントラネット・メール・庁内通知。
- 3 現在行っている協働を調べる。

- 1 説明会、意見交換会。
- 2 HP、広報紙。
- 3 サポートセンターと相談(ニューズレター)。

目的・ねらい

- 1 協働を知ってもらう。
 - ・職員に協働の発想を持ってもらう。
 - ・協働の事例を紹介する。
 - ・協働のメリットを伝える。(行政だけでは出来ない事業や成果)
- 2 協働と協働推進事業の違いを整理する。
- 3 多様な協働へと繋げる。
 - ・協働についてのハードルを下げる。

- 1 協働を知ってもらう。
 - ・何ができるのかを知ってもらう。
 - ・協働のメリットを伝える。(市と協働により、出来ることが広がった。団体だけでは実施出来なかった事業など)
- 2 多様な協働へと繋げる。
 - ・協働についてのハードルを下げる。

検討課題

③ 【課題の共有不足】

8つの論点

- 2、サポートのあり方
- 3、制度とプロセスの検討
- 4、どのようなサポートが必要か
- 6、達成指標や達成という意味合い

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート
&
ヒアリング

- ①担当課がやりたいこと、求めていることに関する情報を市民活動団体は知らないと思う。
（公益）
- ②マッチングによって団体と市の課題をつなぐ。

- ①団体としては、何が市に相談できるのか、どの場所が利用できるのか、できることをメニュー化して明らかにして欲しい。
- ②地域課題について一緒に考えたい。

取組

協働の種探し（ニーズのマッチング）

- 1 市が希望している協働事業のヒアリング。
- 2 市（担当課）が求めていることを集約する。
- 3 市のニーズを市民活動団体に伝える。

- 1 協働のできることをメニュー化する。
- 2 市民活動団体の希望している協働事業をヒアリング。
- 3 市民活動団体のニーズを市に伝える。
・地域の市民ニーズを市に伝える。

目的・
ねらい

- 1 市民活動団体に市の課題を知ってもらう。
・市の課題の中で市民活動団体と協働したい事業を周知する。
- 2 お互いに課題を共有する。
- 3 マッチングにつなげる。
・市民活動団体と市の課題をつなぐ。

- 1 協働のできることを知ってもらう。
- 2 お互いに課題を共有する。
- 3 マッチングにつなげる。
・市民活動団体と市の課題をつなぐ。

検討課題

③ 【課題の共有不足】

④ 【協働のパートナーとしての情報共有不足】

8つの論点

- 2、サポートのあり方
- 4、どのようなサポートが必要か
- 7、テーマ設定

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート
&
ヒアリング

- ①協働は行政だけでは出来ない成果が期待できる。当事者としての意見を聞くことができる。
- ②協働推進事業後の予算の課題が解消されれば協働したい。
- ③前提として、市の意向（計画や考え方）と合致し、一緒にまちづくりができること。

- ①団体の力を発揮できる環境を求めている。
- ②地域に根ざした市民活動団体であるから行政では気づきにくい地域の市民ニーズに気づける。
- ③市担当課と顔の見える関係を築きたい。
- ④地域課題について一緒に考えたい。

取組

分野別発表会 & 交流会（げんき基金補助団体等）

- 1 テーマ設定 + 説明担当課募集。
- 2 ヒアリング。
- 3 分野別発表会 & 交流会。

- 1 テーマ設定 + 発表団体募集。
- 2 ヒアリング。
- 3 分野別発表会 & 交流会。

目的・ねらい

- 1 市民活動団体のニーズや現場の困っていることを意見交換する
 - ・市の考え方、現状、課題を伝える。
- 2 お互いに顔の見える関係を作る。
- 3 課題について一緒に考える。情報交換する。

- 1 他団体 & 市に活動を知ってもらう。
 - ・市民活動団体の活動内容の発表の場。
- 2 他団体 & 市と顔の見える関係を作る。
- 3 課題について一緒に考える。情報交換する。

検討課題

- ④ 【協働のパートナーとしての情報共有不足】
- ⑤ 【（協働推進）事業実施のハードルの高さ】

8つの論点

- 2、サポートのあり方
- 4、どのようなサポートが必要か
- 5、市民と向き合うことが出来ているか
- 8、市のビジョンとのつながり

対象

市（各担当課）

市民活動団体

アンケート & ヒアリング

①団体と顔合せの前に、市民自治推進課である程度整理して欲しい。（共益事業、計画外事業などは×）

①市は協働の姿勢が足りないのでは。
②どの課の誰に相談すればいいのか、どのように相談すればいいのが悩むことが多かった。

協働のマッチング（事前打ち合わせ）

取組

- 1 市民自治推進課が間に入り調整する。
・市民活動団体や事業者と協力できることを調整する。
- 2 協議の場を設ける。

- 1 協働の種や分野別発表会から団体のニーズをマッチングする。
- 2 協働でできることを見える化（メニュー化）する。

目的・ねらい

- 1 市民自治推進課が間に入り調整役となることで、協働のハードルを下げる。
- 2 市民活動団体のことを知ってもらう。
・どのような団体か、何を求めているのか、何を行っているのか。

- 1 市民自治推進課（+サポセン）が間に入り調整役となり、協働のハードルを下げる。
- 2 相談のハードルを下げる。
- 3 市の考え方を知ってもらう。
・市でできること、できないことを明確に。